

がくじ 学 而

摂南大学図書館報

No.99 2018.3



「バルトルス著作集」1602-1603 ヴェネツィア刊（本館所蔵）

バルトルス・ア・サクソフェラート、現存する全作品（諸々の註解、鑑定、質疑および論文） Bartolus a Saxoferrato. Omnia quae extant, opera (Commentaria, Consilia, Quaestiones et Tractatus)

バルトルス(1313年-1357年)は、14世紀イタリアの中世ローマ法及び大陸法の權威であった法学者。ボローニャ大学、ピサ大学、ペルージャ大学の法学教授。スコラ哲学の演繹法を使って法を体系化することにより、実用性に難点の多かった註釈学派に替えて後期註釈学派を発展させた。

CONTENTS

読書の魅力～本を通して世界を広げる～	2	図書館利用統計	9
図書館長 福田 市朗		枚方分館ニュース	10
何のための読書か	4	利用者アンケート結果	12
経営学部 准教授 杉本 篤信		図書館運営委員の推薦図書	14
図鑑大好き！	6	新OPAC登場！	15
薬学部 教授 高松 宏治		摂大文化大賞・編集後記	16
図書館サポーター活動の軌跡・ビブリオバトル2017	8		

読書の魅力

～本を通して世界を広げる～

図書館長 福田 市朗

「Hey Siri、デカルトがいつ生まれたか教えて」とスマホ(スマートフォン)に問いかけると、数秒のうちに、「デカルト(René Descartes)は1596年3月31日にフランスのロワール県に生まれ、1650年2月11日にストックホルムで死去。哲学者・数学者であり、近世哲学の祖として知られる」という答えが返ってくる。さらに、どのような哲学者であったかを問えば、「“我思う、ゆえに我あり(Je pense, donc je suis)”という真理を哲学の第一原理とし、存在と観念を区別、身体と精神の二元論を唱えた」という答えが返ってくる。ついでに、デカルトの名言を教えてと問えば、「良い精神を持っているだけでは十分ではなく、大切なのはそれをよく用いること。良識はこの世で最も公平に配分されているものである」などの名言を教えてくれる。

スマホを利用すれば、まるで近くの美味しいラーメン屋がどこにあるかを即座に教えてくれるように、デカルトについても簡潔にかつ詳細に教えてくれる。わざわざ図書館に出かけてデカルトに関する本を探し、本を開かずとも、デカルトに関する知識や情報が簡単に手に入る。もし読書が知識を得るだけの作業だとしたら、本を読むという作業はまことに能率の悪い作業となろう。図書館に足を運ぶ学生が少なくなるのは当然かもしれない。総務省の「日本の統計2017」によれば、平成27年末のネットユーザーの数は9,943万人、平成30年の末にはSNSの利用者数が7,488万人に達するという。スマホの便利さが私たちの生活の中にしっかりと根付いていることが分かる。それとともに読書離れが進行していると思われる。

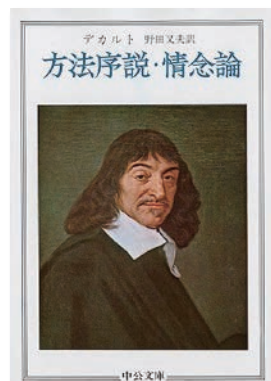
すこし古いが、文化庁が行った平成25年度の「国語に関する世論調査」の報告によると、1カ月間に全く本を読まなかった人の割合は平成14年度で37.6%、平成25年度では47.5%。そのうち、多くの人々が最も読書すべき時期と考えている16歳～19歳では全く本を読まなかった人の割合が平成14年度で34.8%、平成25年度では47.2%となっている。今日の若者は2人に1人の割合で本を読まなくなっているらしい。では、人々は読書

の良さがどこにあると考えているのか。同調査によれば、約6割の人が「新しい知識や情報を得ることができること」と回答している。また、全く本を読まなかった人は今後も本を読まないと回答している。読書を単に新しい知識を得るためだと考えているなら、本がスマホに劣ることは確かである。

とはいえ、同じ「日本の統計2017」には、この5年間の出版物点数は8万点を超えていること。平成26年度に限れば、出版物で最も多かったのは社会科学、つぎに文学、さらに芸術、技術、自然科学と続き、哲学書も4000点ほどが世に出ているという報告がある。

本学図書館も学生の自学自修のために年間約6000冊の図書資料を購入し、配架している。単純計算で毎日16冊の新しい本が配架されていることになる。また、図書館が毎年実施している「図書館利用状況の調査」によれば、年間の来館者は枚方分館を合わせると約30万人であり、貸出冊数は4万冊ほどにのぼる。その内訳は学部ごとに異なるが、最もよく貸し出されている図書は専門図書であり、教養図書、参考図書と続く。貸出トップに並ぶこれらの図書は学生からの購入希望も多い図書である。人々の読書への関心は廃れていないように思われる。

ところで、スマホでデカルトを検索することとデカルトの著書を読むことにどのような違いがあるのだろうか。確かに、スマホであってもデカルトについて多くの知識や情報を得ることができるなら、私たちはデカルトのことをよりよく想像することができ、かつ、彼の考えをよりよく理解することができるかもしれない。けれども、デカルトの著書を読むという作業は、単にデカルトに関する知識を得るためではなく、デカルトから何かを学び取るためであり、自らの思想を深め、考え方を発展させるための作



『方法序説・情念論』

業である。

デカルト自身も学校で勉強することは大切だと言っているし、読書にも積極的であった。私たちが子供のころに童話や寓話を読むことによって精神を目覚めさせたり、少年のころには歴史上の出来事や歴史上の偉大な人物の伝記を読んで自らの精神を高めたりしたものである。デカルトは『方法序説』の中で、歴史に関する書を慎重に読むことは精神を高めるだけではなく、何が大切であるかを見極める判断力を身に付けることができると記している。また、良書を読むことは、「過去の時代の最もすぐれた人々との、いわば談話であり、しかも彼らがその思想の最上のものをわれわれに示してくれる、よく準備された談話なのである」と書いている。（『方法序説・情念論』、デカルト著、野田又夫訳、中公文庫、1974）

良書とは、私たちの心をときめかし、感動を与え、世界を広げてくれる本である。読書とは、本の世界に自分の身を投じ、そこに現れた自分を知ること、そして自分を変える作業である。また、読者とは本が語りかけるところを受け止め、それに向き合う人である。

このような読書がスマホで可能なのだろうか。文字が画面からすぐに消えるスマホの中に自分の姿を見つけることはできないように思う。また、自分を発見し、自分を省みる作業をスマホの中で行うことは難しいように思う。心に浮かぶ移ろいやすい考えや感動をとどめるにはやはり言葉の力が必要であり、言葉で語られている世界を知る必要がある。自らの体験を語るにも、自分の意見を述べるにも言葉が必要である。

1歳のころ高熱に伴う髄膜炎を患い、視力と聴力、そして言葉を失った三重苦のヘレン・ケラー（Helen Adams Keller, 1880～1968年）はサリヴァン先生の指導によって、言葉の存在に気づき、読書の意義を知ることによって、人間として生きることができたと自叙伝で述べている。（『わたしの生涯』、ヘレン・ケラー著、岩橋武夫訳、角川文庫、1966）

言葉の習得が人として成長するうえで欠かせないこ

とは誰もが認めていることである。人々の知的な成長は言語能力に依存し、人格の形成も言語の発達として捉えられる。言葉を用いて自らの経験を語り、言葉を用いて自らの考えを表現するためには、言葉の適切な活用法を身に付けねばならない。読書が重要とされるのは、言葉がどのように用いられ、言葉が私たちの経験世界をどのように形作っているかを理解するところにある。人間社会は言語という体系の下に成り立っている。ヘレン・ケラーは言葉の力を知ることによって人間の世界を手に入れたのである。

本を読むことのこのような大切さは今も昔も変わらない。読書によって世界は広がり、世界の広がりとともに人は成長する。このことを改めて実感したのは毎年図書館が行ってきたビブリオバトルである。

ビブリオバトルとは「人を通して本を知り、本を通して人を知る」をコンセプトに、2007年に発案された知的書評合戦である。読んで面白いと思った本、自分の目を開かせてくれた本を5分間という短い時間で聴衆にプレゼンするゲームである。聴衆は彼らのプレゼンを聞いて、どの本が最も読みたくなったかという判定基準に従って投票し、最も多く投票数を獲得した本が＜チャンプ本＞となる。

大学生を対象とする＜全国大学ビブリオバトル＞は2014年の京都決戦を皮切りに毎年開催され、本学からは3年連続で関西地区の代表に選出され、「全国大学ビブリオバトル首都決戦・京都決戦」に出場している。ビブリオバトルで紹介される本は多彩であり、バトラー（発表者）が面白いと思ったところも個性的である。しかし、彼らのプレゼンを通して何よりも素晴らしいと感じたことは、彼らの本へのこだわり方、読書に対する真摯さ、内容に関する彼らの理解が深いことである。読書が自分だけの世界にとどまらず、聞き手を巻き込んだ＜読書＞となっていることである。読書が私たちの精神世界を豊かにする作業である以上、スマホを見て知識を得る個人的な便利さとは異なる魅力が読書にある。本を通して著者と対話すること、そして、その世界を他者と共有するという新たな読書の魅力。このような魅力が体験できるビブリオバトルはアクティブ・ラーニングの1つの類型であり、もっと多くの学生諸君にチャレンジしてもらいたいと思う。



『わたしの生涯』

何のための読書か

経営学部 准教授 杉本 篤信

読書をすればもうかる？

教員としては学生に専門書だけでなく、様々な種類の本を読むことを勧める。しかし学生からの「本を読んだらどんな良いことがありますか？」の問いに、専門書であれば「成績が上がる」「卒業研究の材料になる」程度のことが言えるが、学生はその程度では読書の意欲は湧かないようである。教養、人生観などを確立するためのいわゆる読書は将来役に立つよ、ではとても説得力はない。

成毛眞著の「本は10冊同時に読め！」といういわゆる啓蒙書にこのような言葉がある。「年収の高い人は、自分の価値を下げないために、どんなに忙しくても本を読み、勉強しているのだ」。

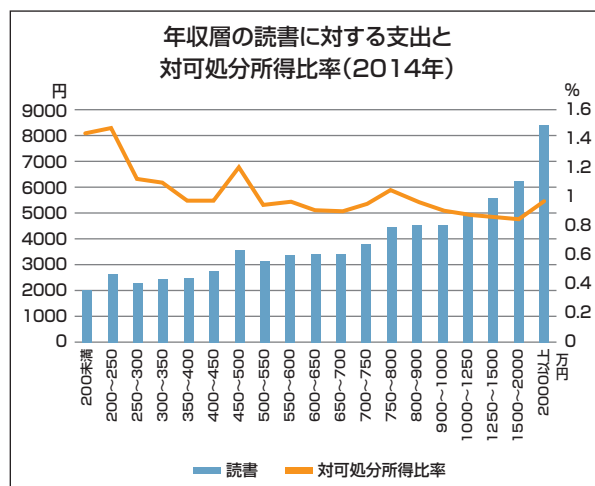
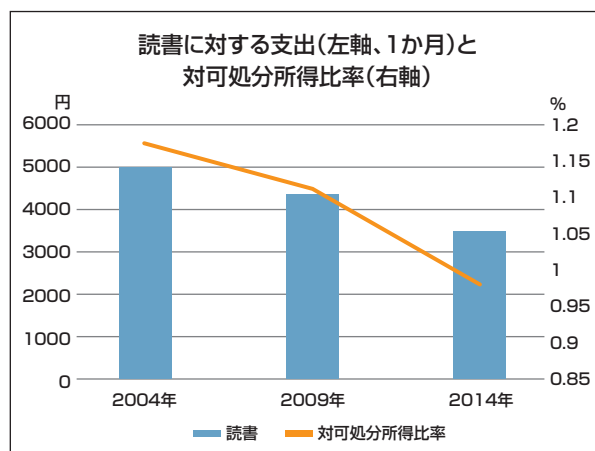
学生に啓蒙書に書いてあることを紹介するのも野暮であるが、読書をすれば金になるよとなれば、少しは読書する意欲が湧くというのも悪い冗談ではない。

というのも経済学では「人的資本」という理論がある。1992年のノーベル経済学賞のベッカーが創めた理論である。簡単に言うと人間は価値を生み出すという点では機械(物的資本)と同じで、生産効率を上げるためには教育、訓練などに費用、時間をかけることが人間の人的資本としての価値を高め、所得増加で体现される。

先ほどの成毛氏の言葉も、正にこの人的資本の理論に合致している。それでは現実には年収と読書との間に密接な関係があるのか、入手できるデータで確認してみよう。

データで確認する読書

総務省が行った「全国消費実態調査」では家計の読書への支出のデータが公表されている。ここでは、2人以上の勤労者世帯のデータを取り上げる。まず平均値を時系列的にみると、ここ10年で読書の支出は減少していることが分かる。このことは、年収が減少していることと関係がある可能性がある。対可処分所得の読書支出の割合の変動を見てみる。支出割合も減少していることから、活字離れの現象は確認できる。



年収層ごとの読書に対する支出との関係は上図のようになっている。確かに年収の高い世帯の読書に対する支出は高くなっている。しかし、このことは読書しているから年収が高くなっていることを立証しているわけではない。前の議論と同様に収入が多いから読書に対する支出が多くなっているからかもしれないからだ。そこで、対可処分所得の読書支出の比率の所得層との関係も併記している。ここでは所得の増加にしたがって、読書に対する支出比率が少し下がっている。このことは読書の所得弾力性が1より低いことを意味している。所得弾力性とは所得の1%の上昇がある項目の支出が何%増加するかを表したものである。

線形推定で可処分所得と読書支出との回帰分析の結果は以下のようになる。

$$\text{読書支出} = 664.58 + 0.0965 \times \text{可処分所得}$$

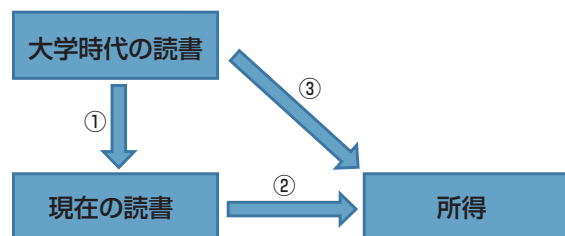
「ミクロ経済学」理論では需要関数の所得効果が0以上の財は正常財、0以下の財は下級財と呼ばれる。正常財は、所得の増加によりそれに対する支出が増大するもので、支出が減少するものが下級財となる。この場合、可処分所得の係数(0.0965)が所得効果に相当し、それが正であることから、読書は正常財である。切片(664.58)は正であることより、所得弾力性が1以下であることが確認できる。所得弾力性が1より小さい場合は、必需品とされる。つまり所得が変化しても支出の変化があまり変化しないことを意味することから必需品とされるのである。また所得弾力性が1以上では、ぜいたく品となる。したがって、読書は必需品となる。しかし、切片の値はそれほど大きくないことより、相対的には弾力性は1に近いので、ぜいたく品に近い必需品であると言える。

いずれにしろ、読書と所得の因果関係が明らかでないことより、読書が所得を増加させることは確認が難しい。

大学時代の読書の効果

現在の所得が、現在の読書、大学時代の読書にどのように影響を受けているかを分析した研究を紹介してみよう(濱中淳子「検証・学歴の効用」第3章)。ここでは、工学系、経済学系出身者のアンケート調査によるデータを分析している。

現在の所得が高い人は現在読書を多くし、現在読書している人は、大学時代読書を多くしている傾向がある。このことから現在の所得は読書から次の図のような経路からの影響があるという仮説を立て検証している。



「検証・学歴の効用」p.99を参考に作図

まず①、②の経路であるが、大学で読書した経験が現在の読書の習慣化に影響を与え、その正の連鎖が本人の能力を増加させ現在の所得を増加させる。③の

経路は、大学時代に読書により身に付けた知識、教養が現在の所得に及ぼす影響である。

思想書、純文学、専門書いわゆる固い本の読書は、工学系の学生では①②③において、経済学系の学生では①②において正の相関が確認できる。

工学系の学生は大学生時代の読書はそれにより身につく知識、教養だけでなく、その習慣づけが将来にわたっての影響が所得を上昇させる。経済学系の学生は、大学時代の読書により身に付けた知識、教養は将来の所得に影響はなく、読書の習慣づけにのみ所得に影響を与えている可能性を示唆している。いずれにしろ大学時代の読書は将来に正の連鎖効果を持つ。ただしマンガ、趣味、娯楽のいわゆる柔らかい本の読書は①③において負の相関が有意となる。②が有意ではないので、負の連鎖効果はないのだが、大学時代の柔らかい本の読書は、直接的に将来の所得を下げる効果があることより、読書は中身も大事だということである。

大学生時代にこそ読む本

読書することが金になる話ばかりしていたが、最後に金に関係がない感性、人生を豊かにする読書に関する個人的体験を話したい。

中学時代に柔道の小説と勘違いして読んだ漱石の「三四郎」は退屈な小説だった。20歳過ぎた頃に読むとそれはすごく刺激的で、すごく現代的な小説に感じた。現実にも、また将来もモテない人生が確信された感性で読むと、美禰子に振り回される主人公の三四郎への感情移入が過剰にできた。中学生では早すぎるし、中年以上では遅すぎる。20歳前後の感性にしか響かないものがあるだろう。それは文学だけでなく、勉強も同じであろう。そんな体験をしてもらうためにも様々な本を読んでもらいたい。

とりとめのない話になったが、皆様が少しでも読書をしたくなっていたら幸いである。

成毛眞(2008)「本は10冊同時に読め!」知的生き方文庫 三笠書房
濱中淳子(2013)「検証・学歴の効用」勁草書房



はじめに

この度、図書館報への寄稿依頼を受けて冬休み前にあるテーマで書き上げてみたが、気に入らなかった。休みに入ってから、家で次男のゴジラ話に生返事で答えているとき、ふと幼少の記憶が浮かんた。私の愛読書は、過去も、現在も、たぶん未来も図鑑である。これだ。図鑑のことなら書ける。当たり前の話として、文字が読めない子供でも絵や写真を認識できる。自分は、それがいつ頃からか覚えていないが、動物図鑑、昆虫図鑑、恐竜図鑑などを好むようになっていた。あの頃、視覚的な情報を伝えるメディアはテレビか書籍に限られていたし、多色刷り印刷ページやカラー写真で構成された書籍は今ほど豊富でなく品質も劣っていた。それでも少年の心を躍らせるには十分だった。もちろん、図鑑の解説文も繰り返し読んだ。そして、高校で理系を選択し、大学で生物学を専攻し、大学院で微生物を研究し、微生物学の専門家になった。図鑑との運命の出会いにより、似たような道を歩んでこられた方がいらっしゃるだろう。そう信じて、本稿では図鑑に対する私の思いをお伝えしたい。

図鑑今昔物語

今はとても良い時代だ。インターネットの検索機能を利用すると、検索ワードに従って、絵や写真がパソコンやスマートフォンのモニター上に映し出される。書店や図書館に行けば、紙媒体の魅力的な雑誌、画集、図鑑などがたくさんある。私の少年時代、これほど恵まれた環境は存在しなかったが、それなりに良くできた図鑑があった。では、図鑑はいつ頃から作成されるようになったのだろうか？ 私は歴史家ではないので、図鑑の始まりについて語れない。そもそも図鑑とはどのような書籍を示すのか、正確な定義があるのかさえ分からない。ここでは難しく考えず、直感的にとらえることにしよう。図鑑の図とは絵や写真など文字以外で視覚的な情報を与えるもので、多くの図が収載され、それらに対する解説文が記載された書籍を図鑑としよう。図鑑の主な用途からすると、原則として事実に基づいた図と解説文で構成されるべきだが、怪獣図鑑や妖怪図鑑もあるので、空想の世界を

扱っていても良いことにする。なぜ、図鑑を作る必要があるのか？ 例えば、ゾウを見たことがない人に、ゾウに関する説明文を読ませてから、どのような姿をしているか想像図を描いてもらおうと分かるはずだ。きっと、化け物や、ご当地ゆるキャラみたいに、個性豊かなゾウが登場する。言葉で説明するよりも、絵を使って説明した方が分かりやすい場合がある。マンガも同じ理由で広く普及している。人類は絵をコミュニケーションに用いたり、想像力の原材料にする能力をいつ頃獲得したのだろうか？ 文字が発明されていなかった時代に、我々の祖先が描いた壁画が世界各地に残されている。その代表例として、皆さんはラスコー洞窟の壁画をご存じだろうか？ 約2万年前の人類が、フランスの洞窟内の壁面に残した動物画である。つい最近になって念願の夢が叶い、国内の博物館で開催されたラスコー洞窟壁画展に行く機会があった。本物の洞窟は輸送できないので、洞窟の精密なレプリカが使われていた。動物画は暗い洞窟の凹凸壁面を駆け巡り、飛び跳ねながら、言葉にならない言葉で、画家が見ていた世界を静かに語りかけてきた。この壁画は少年の心を躍らせた図鑑と同じ威力を示していた。私の勝手な想像によると、文字を発明する前から、人類は絵を使って語っていた。これこそが図鑑の原点である。図鑑大好きになる遺伝子は、遙か昔の祖先から受け継がれているのだ。

趣味と仕事と図鑑

図鑑の命と言え、間違いなく絵や写真である。次いで解説文が正確かつ簡潔であること。また、テーマに従って、適切な編集がなされていることも重要である。繰り返しになるが、最近の図鑑は子供向けから大人向けまで良くできている。著作スタッフに専門家が加わり、最先端の研究結果が反映されている。例えば、私が少年時代に買ってもらった恐竜図鑑では、鱗の皮膚で覆われたティラノサウルスがゴジラのように頭を上げ、尾を下げて歩いていた。現在の恐竜図鑑では、頭と尾を同じ高さにして、地上を歩く鳥のような姿のティラノサウルスが描かれている。最新の図鑑は、新たな学説に従い、恐竜は絶



『化石・岩石 (学研の図鑑)』
長谷川善和・加藤磐雄 (著)
学研プラス 1976

滅したのではなく、一部が鳥に進化し、繁栄したと記載しているのだ。実際に恐竜を見た人はいないので、あくまでも科学的資料に基づく想像図であり、もしかすると、何年か後には別の姿で描かれる可能性もある。書店の図鑑コーナーに行くと、子供向けの図

鑑は下の棚に、大人向けは上の棚に並んでおり、私はざっと上から下まで、どんな図鑑があるか眺めてから、目線に近い図鑑を手取る。たまに、おっ!と思うような図鑑がある。つい最近、何だか心当たりのあるタイトルの小さな図鑑を開いてみたら、大学の同級生が著者だった。彼のように見て分かる生物を扱っている研究者が、ちょっと羨ましい。私の専門分野から考えると一般的読者向け図鑑の著者になる可能性は低くそうだが、半ば趣味として顕微鏡写真にこだわりがあるので、いつか微生物写真集をホームページで公開しようと思う。

絵は語る

私の出身大学では、先生のオフィスに図鑑が積んであっても珍しくなかった。薬学部では事情が違い、図鑑、あるいはそれっぽい書籍を沢山並べておられる先生は少数派と感じる。私はパソコンとインターネットが普及し始めた頃に就任したので、先輩の先生方と比べてデスク周辺に紙媒体の資料が少ないと思う。業務上の資料や研究論文などの多くは電子ファイルとして保存できるし、研究室の利用可能なスペースが限られるので専門書は必要最小限を選んで残している。それでも図鑑は特別扱いで、私の本棚には小学生の頃に買ってもらった図鑑を筆頭に、仕事で使う専門的な図鑑まで、いろんな分野の図鑑が並んでいる。ついでに言うと、私が集めた化石の一部も飾ってある。学生も、たまに私の本棚の図鑑を見ているようだ。4~5年前だったか、ふと気付くと、見覚えのないサメのイラストが本棚にあった。点画と呼ばれる実習で教わる画法を用いて描かれていた。良く描けていたので合格とし、捨てずにそのままにしておいた。ある日、卒研指導している学生が、「絵を描くのが好きで、本棚にあった化石図鑑の絵をスケッチした。先生に見せたかった。」と唐突に言った。私は「ああ、そうだったの。上手いね。」と答えた。もしかすると彼女は、私が気付いて、

褒めてくれるのを待っていたのかも知れない。作品はナウマンゾウの臼歯化石と並んで、いつまでも同じ場所にあり、音のない声で語りかけてくれる。

実物が見たい

図鑑は、現物と出会う機会が得られないような貴重品や希少種を、絵や写真で教えてくれる。図鑑がなければ、私がラスコー洞窟壁画に憧れることはなく、その存在を知る機会さえなかっただろう。図鑑のお陰で存在を知ってしまったら、なんとなく実物を見たいくなる。いよいよ本気になったら実物を求めて世界中を巡るのも良いだろうが、そう簡単に出会えるとは限らない。確実に楽な方法として、博物館、動植物園、水族館などのご利用をお勧めする。図鑑大好き人間は、博物館や動植物園も大好きと思う。私は自然史博物館や植物園が好きだ。中学生か高校生の頃、県内に立派な植物園ができた。父からもらったNikonの一眼レフを持ち、自転車で1時間弱かけて何度も行った。当時撮影した写真は、今も実家に残っているかも知れない。あれから時が経ち、何の因果か、必然か、私は2016年度に薬学部附属植物園の管理責任者に任命され、植物図鑑や園芸ガイドブックとのお付き合いが以前よりも増えてきた。



摂南大学薬学部附属
薬用植物園



あとがき

この機会を利用して読者の皆様に本学薬用植物園のことをお伝えしたかったが、残念なことに字数が残されていない。ご興味のある方は、是非、薬用植物園のホームページをご覧ください。まだ、新装開店したばかりで、お見せできる情報が少ないが、これから徐々に充実する見込みである。図書館報関係者各位と、読者の皆様にお礼を申し上げる。続きは、またどこかで。

図書館学生サポーター活動の軌跡

図書館では、本や読書が好きな学生諸君が図書館をより良くするために、「図書館学生サポーター」として活動しています。「摂大文化大賞」など図書館行事運営の補助のほか、知的書評合戦「ビブリオバトル」や、お気に入りの本を紹介して語り合う「マイ・フェイバリット・ブックス」などのイベントを積極的に運営し、参加しています。2017年度の主なサポーター活動としては、季節ごとの「しおり」を作成し、カウンターで図書資料の貸出し時に配付しました。また、「全国大学ビブリオバトル」にサポーターのメンバーが参加し、全国大会出場などの快挙もありました。



マイ・フェイバリット・ブックス



しおり (秋)



ビブリオバトル (学園祭)

●ビブリオバトル

学内開催 (寝屋川キャンパス)

	日 時	時 間	場 所	発表者	参加者数	備 考
第1回	6月23日 (金)	16:40~ 18:00	ラーニング・ コモンズ	5名	22名	
第2回	10月7日 (土)	15:00~ 16:30	ラーニング・ コモンズ	4名	15名	摂大祭イベント (兼全国大学 ビブリオバトル2017第1回予選会)
第3回	11月10日 (金)	16:40~ 17:50	ラーニング・ コモンズ	4名	14名	全国大学ビブリオバトル 2017第2回予選会

学外開催

	日 時	時 間	場 所	発表者	参加者数	備 考
関西 Eブロック 地区決戦	11月18日 (土)	15:00~ 17:00	大阪大学 豊中キャンパス	関西の大学 13名	約40名	全国大学ビブリオバトル2017 (サポーターが準チャンピオンに)
首都決戦	12月17日 (日)	12:30~ 17:00	よみうり 大手町ホール	全国の大学 36名	約500名	全国大学ビブリオバトル2017 (サポーター惜しくも準決勝敗退)

●マイ・フェイバリット・ブックス

学内開催 (寝屋川キャンパス)

	日 時	時 間	場 所	発表者	参加者数	備 考
第1回	12月15日 (金)	17:00~ 18:10	ラーニング・ コモンズ	4名	8名	テーマは無し

ビブリオバトル 2017

ビブリオバトル首都決戦 2017 に出場して

摂南大学 経営学部 経営学科 4年 新谷勇馬

私がビブリオバトルと出会ったきっかけは、2年生の時に図書館長であるゼミの先生に誘われ入った「図書館学生サポーター」というグループ活動です。図書館学生サポーターでは図書館の利用者を増やすため、本の魅力を多くの人に知ってもらおうという理念のもと、ビブリオバトルなどのイベントを率先して行っていました。読書が好きな私は、他の人の発表を聞くことで、自分の知らない面白い本が見つかるのではないかと理由から、このグループに入りました。当初私はあくまで他の人の発表を聞きたかっただけであり、人前で発表が苦手であるため、自分がビブリオバトルのバトラーになることは考えていませんでした。しかし、毎年予選会を行うためのバトラーが足りないということで、言わば人数合わせのために参加することになりました。当初はやはり不慣れさや拙さが目立ち、人前で話すことに対する苦手意識もあって、良い発表を行えたとはとても言えないありさまでした。正直なところ、この時はもう次回以降バトラーとして出る気はなかったのですが、次の回も、そのまた次も出場するように言われ、図書館学生サポーターに所属してから行われたビブリオバトルの大半にバトラーとして出るようになってしまいました。

バトラーになるたびに発表の方法を試行錯誤し、失敗や良かったことなどを自分で探していくうちに、次第に人前で話すこと

自体への抵抗は減っていきまし
た。3年生の後半ともなると、話
し方も少しは流暢になってきたん
ではないかと思うほど、成長が
自分なりに見られました。やがて
4年生になり、これが最後と思っ
たビブリオバトル出場でまさかの学内予選、地区予選を勝ち抜き、首都決戦という大きな舞台での発表をする機会が巡ってきました。このころにはビブリオバトルにバトラーとして参加することも当初ほど苦痛ではなくなっていました。むしろ地区予選、首都決戦とレベルの高い他の人の発表を聞いたことで得られるものが大きかったと思います。

結果として首都決戦までは出られたものの、残念ながらそこで敗退となってしまいました。しかし、ビブリオバトルを通して自分を振り返ると、プレゼン能力であったり、チャレンジ精神や腹の括り方であったりと成長できた点がたくさんあるなど実感できたので、苦手と感じつつも最後までやってきて良かったと思います。また強引ながらも背中を押してくれた図書館長や関係者の皆さん、同じサポーターの人達に感謝すると同時に、後輩諸君の今後の活躍を祈りたいと思います。



図 書 館 利 用 統 計

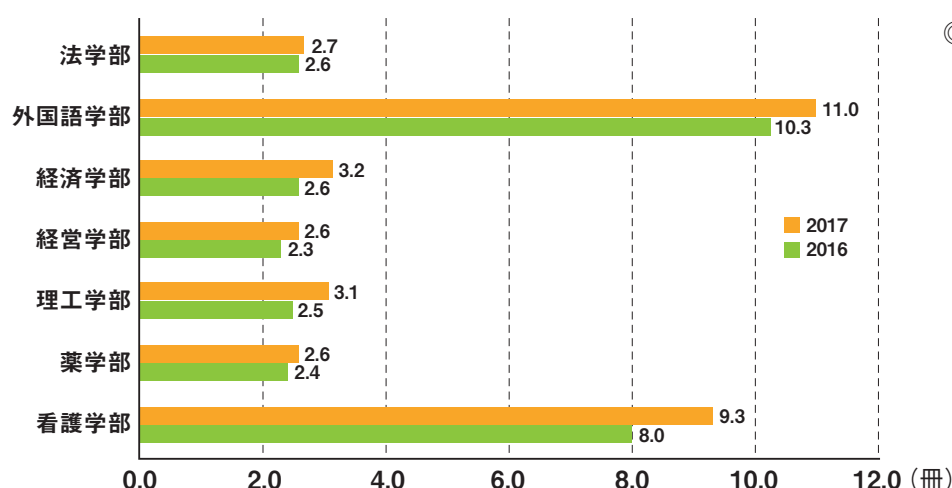
図書館ではより良い図書館運営のために利用状況の調査、アンケートの実施などを行っています。ここでは2016・2017年度(いずれも1月末までの比較)の利用状況と学部別貸出冊数、貸出ランキング(本館)について報告します。

図書館利用状況 [2016年度、2017年度 (いずれも1月末まで) 実績]

区 分		本 館	分 館	計
開 館 日 数	2017 年度	233日	240日	473日
	2016 年度	236日	240日	476日
入 館 者 数	2017 年度	227,209人	70,289人	297,498人
	2016 年度	228,059人	84,665人	312,724人
貸 出 者 数	2017 年度	17,945人	4,737人	22,682人
	2016 年度	17,041人	4,709人	21,750人
貸 出 冊 数	2017 年度	32,553冊	9,108冊	41,661冊
	2016 年度	30,014冊	8,817冊	38,831冊

◎2016年度は本館・分館とも前年度よりも利用が減少していましたが、2017年度は入館者数は減少しているものの、貸出者数・貸出冊数は前年度より増加傾向にあります。

学部別1人当たり貸出冊数 [2016年度、2017年度 (いずれも1月末まで) 実績]



◎外国語学部と看護学部の貸出冊数が非常に多く、授業での図書館利用指導の成果が出ているようです。他の学部についても昨年より増加していることは良い傾向と捉えられますが、図書館としては皆さんにもっとたくさんの本を読んで欲しいと思います。

貸出トップ10 [2017年4月～2018年1月] (本館)

順位	タイトル / 著者 / 出版社	貸出回数
1	コンビニ人間 / 村田沙耶香 / 文藝春秋	22
2	蜜蜂と遠雷 / 恩田陸 / 幻冬舎	16
3	羊と鋼の森 / 宮下奈都 / 文藝春秋	15
4	夜行 / 森見登美彦 / 小学館	13
5	君の膵臓をたべたい / 住野よる / 双葉社	12
	海に見える理髪店 / 荻原浩 / 集英社	12
7	大学1年生のための伝わるレポートの書き方 / 都筑学 / 有斐閣	11
	ツバキ文具店 / 小川糸 / 幻冬舎	11
	火花 / 又吉直樹 / 文藝春秋	11
10	リバーズ / 湊かなえ / 講談社	10

◎2017年度もメディアで話題になった本や映画化された本がよく読まれ、傾向としてはやはり小説の貸出が多くなっています。



*資格・就職に関する本や参考書等は除いたランキングとなっています。



枚方分館では、薬学や看護関連の専門図書を重点的に揃え、各種資料・検索サービスなどを利用者が有効活用できるよう学生の教育・研究を支援する体制を整えています。また、利用者に対して、わかりやすい掲示や各種情報提供・案内を心がけ、利用者の視点に立ち問い合わせなどに親切・丁寧に対応して図書館の利用促進を図っています。

4月

情報検索システム利用説明会の開催

枚方分館では、通常の冊子体資料のほかにインターネットを利用した専門分野のデータベースや電子ジャーナル、および DVD・CD などの多くの電子資料が利用できます。こういった資料をより効果的・効率的に活用できるように教育・学習・研究のための情報提供・利用指導・相談受付を行っています。

専門的な情報検索システムなどの利用説明会を利用者向けに開催し、必要な論文の検索に関する基本的な使い方からポイントを絞った応用テクニックまで実際の具体的な検索結果をもとに演習形式で解説を行います。また希望者には、個別の指導も行っています。

●「医中誌Web」利用講習会(昨年の開催例)

＜所要時間:90分間(解説と演習)＞

医学・歯学・薬学・看護学および関連分野の
論文情報検索サービス

日 程:2017年4月12日(水)、13日(木)、14日(金)

3回実施

場 所:枚方学舎 5号館3階 情報処理第1演習室

対 象:看護学部の教員、3年次学生



7月

恒例の選書フェアを開催

7月3日(月)から7日(金)まで枚方分館で実施した選書フェアでは、分館の利用者が共通に利用できる図書館配架用の医・薬・看護学を中心とした専門図書約700冊の資料を書店から持ち込んでもらい、学術雑誌ゾーンに特設ブースを設置して開催しました。

先生や学生諸君は、並べられた図書を手に取り、内容を熱心に見て選書している姿が見られました(右写真)。

期間中、寄せられた購入希望図書のうち、蔵書と重複がない事を確認した図書を購入し、新たに蔵書として加えました。

なお、この希望図書は、協力いただいた参加者への報告を兼ねて「選書フェア」の特集展示物として館内の特別コーナーで公開しました。



5月~

読書ラリー

YOMOCA(ヨモカ)の実施!(分館限定)

枚方分館では図書館の利用を促進するため、学生に読書習慣をつけてもらおうと、読書ラリーYOMOCA(ヨモカ)(これ以降「YOMOCA」と表示)を始めました。2014年度後期から、学生・教員対象に毎年継続しており、今年度で4年目となりました。今年度は1月現在で102名の参加者が登録しています。

YOMOCAは本人の申請により自由に参加でき、登録時にポイントカード(写真①)を配付します。貸出図書の返却、図書を紹介するPOPやブックレビューの寄稿などによりポイントが付与されます。ポイント数に応じてスタンプが押され、30ポイントたまると学園オリジナルグッズ(写真②)や、本の貸出冊数が増加する優遇措置などの特典もあります。

提出されたブックレビューは館内で展示されたり(写真③)、ブログに掲載され、閲覧者に有益な情報提供となることを期待する一方、投稿者には教育や研究に必要な表現力の涵養につながることを期待しています。YOMOCAは学生諸君の読書習慣の奨励につながり、表現力向上にもつながるものなので、次年度以降も引き続き実施する予定です。

2017 読書ラリー YOMOCA POINTCARD

学館番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
合										
差出人	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
申込日	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30

写真①



写真②



写真③

通年

テーマ別特集展示の実施

5月

憲法と天皇制度

6月

医・薬・看護系英語

7月

8月 暮らし・てづくり
(県大文化大賞に向けて)

8月

追悼・日野原重明先生

9月

選書フェア2017

9月

レクリエーションいろいろ

11月

環境問題2017

12月

1月 世界の宗教と国際情勢

2月

動物と暮らす

3月

マイノリティーについて

枚方分館では、季節や身近な話題などの興味を引く事案から特定のテーマを選び、年間を通じて特集展示を実施しています。



館内の資料を展示公開することで利用者の皆さんに紹介すると共に、関心を持って資料に触れていただき、有効に活用されることを期待しています。また、じっくりと読みたい場合は、普通図書なら貸出もできます。

図書館をご利用の際には、展示コーナーを是非ともご覧ください。



2017年度 図書館利用者アンケート結果

図書館では、利用者の皆さんの図書館に対する認識や要望を確認するため、毎年度アンケートを実施しています。

今年度は、昨年の11月27日から12月16日までの間、メインカウンター付近にアンケート用紙を置き、入館者に回答いただきました。また、同時に図書館ポータルサイトでも回答できるようにしました。ご協力ありがとうございました。今後の図書館運営に活かしたいと思います。

本稿では、前年度との比較も含め、主な項目の集計結果を報告します。



1. 回答者数

325 人(昨年度：241 人)内ポータルサイト 73 人(昨年度：21 人)

【本館】 234 人(昨年度：163 人)

【分館】 91 人(昨年度：78 人)

2. アンケート集計

(1) 図書館をどの程度利用していますか。

本館	選 択 肢	教職員	院・学部生他	計(人)	比率(%)	前年度(%)
	ほぼ毎日	0	36	36	15.4	16.0
	週に2～3日程度	1	86	87	37.2	44.2
	週に1日程度	0	61	61	26.1	27.6
	月に2～3日程度	1	18	19	8.1	7.4
	月に1日程度	0	11	11	4.7	1.8
	試験期間のみ	0	3	3	1.3	0.6
	ほとんど利用しない	1	14	15	6.4	2.5
	その他	0	2	2	0.9	0.0

分館	選 択 肢	教職員	院・学部生他	計(人)	比率(%)	前年度(%)
	ほぼ毎日	1	6	7	7.7	14.1
	週に2～3日程度	0	27	27	29.7	30.8
	週に1日程度	0	11	11	12.1	12.8
	月に2～3日程度	1	9	10	11.0	9.0
	月に1日程度	2	3	5	5.5	2.6
	試験期間のみ	0	21	21	23.1	23.1
	ほとんど利用しない	0	9	9	9.9	6.4
	その他	0	1	1	1.1	1.3

●本館では昨年に比べ「ほぼ毎日」や「週に2～3日程度」と回答した人は少し減り、「月に1日程度」や「ほとんど利用しない」と回答した人は、増加傾向です。

●分館でも本館と同様の傾向が見られますが、分館では「試験期間のみ」と回答した人が例年高いのが特徴的です。

●両館ともに学年が高くなるほど、利用頻度が低い回答を選ぶ人が少しずつ増えていくようです。

(2) 図書館資料のうち、次のどれを充実すべきだと思いますか。〈複数回答〉

【回答者数】本館：234人、分館：90人

項 目	本館回答数	比率(%)	分館回答数	比率(%)
教養図書	74	31.6	34	37.8
専門図書	111	47.4	59	65.6
参考図書	51	21.8	27	30.0
視聴覚資料	28	12.0	5	5.6
国内学術雑誌	15	6.4	9	10.0
外国学術雑誌	30	12.8	3	3.3
一般雑誌	35	15.0	15	16.7
電子ジャーナル	9	3.8	7	7.8
電子ブック	15	6.4	10	11.1
データベース	14	6.0	3	3.3
新聞	12	5.1	3	3.3
シラバス掲載図書	5	2.1	11	12.2
資格取得関連図書	52	22.2	6	6.7
文庫本・新書本	71	30.3	26	28.9
その他	1	0.4	0	0.0

●本・分館ともに昨年と変わらず「専門図書」の充実を望む声が一番多い結果となっています。

●本館では「教養図書」、「文庫本・新書本」と昨年と同様の順位でしたが、次いで「資格取得関連本」、「参考図書」でした。

●分館では「教養図書」、「参考図書」、「文庫本・新書本」、「一般雑誌」の順になっています。また、昨年に比べ「電子ブック」への回答比率が上昇している点が特徴的です。

(3) 図書館の環境についてどう思われますか。

良い：3点、普通：2点、悪い：1点として平均点を算出しました。

項 目	本 館	前年度	分 館	前年度
資料の配置	2.5	2.5	2.6	2.5
閲覧席	2.4	2.5	2.8	2.5
案内表示	2.5	2.4	2.5	2.4
静寂性	2.3	2.2	2.3	2.2
視聴覚設備	2.4	2.3	2.4	2.2
パソコン設備	2.4	2.2	2.4	2.2
ラーニング・コモンズ(本館のみ)	2.6	2.5	—	—
環境全般	2.5	2.5	2.6	2.5

- 本館では「閲覧席」以外は、前年より良好な評価となりました。
- 分館では、全項目で前年より良好な評価となりました。
- 「環境全般」については、本・分館ともに、前年並みの平均的な評価を得ています。

(4) 図書館の企画展示(特定のテーマの図書の展示)についてどう思いますか。

項 目	本館比率(%)	分館比率(%)
関心(興味)がある	29.1	36.7
あまり関心(興味)はない	47.8	43.3
企画展示は見たことがない	23.0	20.8

- 本・分館とも「関心(興味)がある」人は3割前後で、「あまり関心(興味)はない」または「企画展示は見たことがない」という人が多く、残念な結果です。

(5) 図書館イベント活動等についてご記入ください。

a:関心(興味)がある、b:あまり関心(興味)はない、c:知らない

項 目	本館 比率(%)			分館 比率(%)		
	a	b	c	a	b	c
摂大文化大賞	13.9	49.4	36.8	6.7	32.6	60.7
ビブリオバトル	9.9	67.7	22.4	3.3	33.3	63.3
マイ・フェイバリット・ブックス	11.2	45.7	43.1	7.8	28.9	63.3
選書フェア	21.4	39.3	39.3	20.9	30.8	48.4
図書館学生サポーター活動	9.4	45.7	44.9	4.5	29.2	66.3
読書ラリー"YOMOCA"(枚方分館)	7.1	28.6	64.3	23.5	27.1	49.4

- 本・分館とも全体的に図書館イベントに「関心は無い」や、「知らない」という人が多く、「選書フェア」以外では関心に偏りが見られます。

(6) 図書館のお知らせやサービス内容を主に何で知りますか。〈複数回答〉

【回答者数】本館:232人、分館:88人

項 目	本館回答数	比率(%)	分館回答数	比率(%)
ホームページ	74	31.9	20	22.7
Library Guide[冊子]	5	2.2	1	1.1
館内のパンフレット	13	5.6	7	8.0
館内の掲示	87	37.5	38	43.2
館外の掲示	26	11.2	12	13.6
図書館スタッフ	7	3.0	9	10.2
友人	37	15.9	24	27.3
その他	0	0.0	2	2.3

- 本館では「館内の掲示」、次いで「ホームページ」、「友人」の順となりました。
- 分館では「館内の掲示」、次いで「友人」、「ホームページ」となっています。
- どちらも、ホームページや掲示物の情報を利用者間で伝え合っているようです。

(7) 次の目的で図書館を利用する場合、利用環境はどうですか。

良い：3点、普通：2点、悪い：1点として平均点を算出しました。

項 目	本館	前年度	分館	前年度
レポート作成	2.5	2.4	2.6	2.6
自学、自習	2.5	2.6	2.7	2.6
グループ学習	2.4	2.3	2.0	1.8
図書閲覧	2.4	2.5	2.6	2.5
雑誌・新聞閲覧	2.4	2.4	2.7	2.5
視聴覚資料鑑賞	2.3	2.3	2.4	2.2

- 本館では、「自学、自習」と「図書閲覧」を除き、全体的に横ばいの評価を得ています。
- 分館では、大部分の項目に関して前年評価より向上しており、特に「自学、自習」、「雑誌・新聞閲覧」では良い評価を得ています。

(8) 図書館スタッフの対応についてどう思われますか。

	良い(%)	普通(%)	悪い(%)
本 館	68.2	29.2	2.6
分 館	80.0	17.8	2.2

- 本館では7割近く、分館では8割の人が「良い」という評価で、概ね高評価と言えます。今後も引き続きサービス向上に努めたいと思います。

図書館運営委員の先生方に「学生時代に読んで欲しい本」をテーマに推薦図書を紹介していただきました。

『官僚たちの夏』（新潮社）

城山三郎[著] 新潮文庫 1980年

映画「風と共に去りぬ」は、見るたびに感動を覚える名作です。同じものを見ても異なる感動があるというのは、おそらく自分自身の感性が変化しているからでしょう。本についても同様です。そこで、年齢も育った環境も大きく異なる皆さんに私の一方的な思いから推薦するのではなく、私が皆さんの年頃に読み、共感した本をご紹介しますこととしました。

物語は一官僚の中央官庁での熱き戦いです。本書は、ミスター通産省（現、通商産業省）といわれた実在の人物をモデルとする経済小説で、長らく中央官庁に奉職した私から見てリアルな内容です。

法学部 小島 俊朗 教授



『人はなぜ太りやすいのか』（みすず書房）

肥満の進化生物学

マイケル・L・パワー、ジェイ・シュルキン[著] 山本太郎[訳] 2017年

本書は、私たちが環境に適応して進化してきた生物であること、そうした私たちにとって、現代社会は肥満になりやすい社会であることを教えてくれる。肥満を気にして日々の食事や運動を気づかうことに疲れている私たちに、肥満は、現代社会が利益を生み出すための策略に、私たちがはまってしまった結果かもしれないことに気づかせてくれる。

しかし、それが、私たちが作り上げてきた現代社会の本質の1つだと知れば、人の健康が優先される社会のあり方を想像することができる。本書は、進化と適応の視点から現代社会における人の肥満について議論し、これまでとは違う新たな観点から重要なヒントを与えてくれる。日本語の訳がわかりやすい。

看護学部 小堀 栄子 教授



『草枕』（新潮社）

夏目漱石[著] 新潮文庫 1906年

熊本県玉名市小天温泉を舞台にして、漱石のいう「非人情」の世界を描いた作品である。「智に働けば角（かど）が立つ。情に棹（さお）させば流される。意地を通せば窮屈だ。とかくに人の世は住みにくい。」という冒頭部分は非常に有名であり、正に俗世間を生きる我々現代人にとっても、共感できる考えが随所に出てくる。冒頭は非常に難解であるが、登場人物の会話に入ると意外とくだけており、学生時代に読破してほしい作品の1つである。さらに、本書では西洋および東洋（中国や日本）の芸術の比較が数多く記載されており、教養を深めるという意味でも恰好の作品である。

薬学部 松浦 哲郎 教授



『悲の器』（新潮社）

高橋和巳[著] 新潮文庫 1967年（改版）

大学に入学（昭和43年）して間もなく、私は大学紛争の只中に置かれた。遠くのシュプレヒコールに無関心を装いつつも、何かに突き動かされるように手にした本に高橋和巳の代表作「悲の器」がある。大学教授であり、社会的にもエリートの頂点に立った主人公の内面に蠢く心の葛藤を、暗く重苦しいまでの筆致で克明に抉り出したこの小説が、彼、高橋和巳の30代初頭の作品であることに驚かされる。至って難解な小説であるが、当時の混沌とした大学・社会において若き学究の脳裏を過ぎった苦悩と思想は、現在の若者とも無縁ではないであろう。枕頭の書とまでは行かないまでも、純文学として青春の一冊に加えて欲しい。

理工学部 村田 幸作 教授



『職業としての学問』（プレジデント社）

マックス・ウェーバー[著] 三浦 展[訳] 2017年

1917年にドイツのミュンヘン郊外書店で150人ほどの学生に向けて行われた講演内容をまとめた本で、2017年度にさらに現代に合わせた訳本が出版されました。大体の学生は大学を卒業すると就職して働くようになりますが、多くの学生は「なぜ就職するのか」「なぜ働くのか」「なんのために働くべきか」などについて考えずに、自分の意志よりまわりの流れによって就職先を決めて社会へ進出する。自分にあった仕事を見つけ、さらに自分の仕事に対するプライドを持ったハッピーな人生を生きるためにも学生生活中にぜひとも読んでほしい一冊です。

経済学部 朴 景淑 教授



『蜜蜂と遠雷』（幻冬舎）

恩田 陸[著] 2016年

今年度の私のお勧めは恩田陸の『蜜蜂と遠雷』（2016年 幻冬舎）である。直木賞と本屋大賞を史上初でダブル受賞したという栄誉に輝いたとおり、読者を最後までわくわくさせる秀作である。音楽を言葉で表現することは至難の業であると察するが、それぞれの登場人物の奏でるピアノの音がそれぞれの個性が生み出す調べとなり、ピアノをあまり解さない私の心にも鳴り響いてきた。作者の音楽に対する造詣の深さと表現力の豊かさは、作者が描いた二人の天才登場人物の才能と重なる。日本語母語話者に生まれて良かったと感じることができた。

外国語学部 家口 美智子 教授



『青春漂流』（講談社）

立花 隆[著] 講談社文庫 1988年

独自の世界で活躍している11人の若者に、立花隆氏がインタビューしたものである。彼らの夢、挫折、苦悩などが本人の口から生々しく語られる。

「恥なし、失敗なしの青春など、青春の名に値しない」「人生における最大の悔恨は、自分が生きたいように自分の人生を生きなかったときに生じる」。立花隆氏の言葉を実感するために是非若い時に読んでほしい本である。

当時男性誌（スゴロ）に連載していたので、すべて男性であるのが残念。できれば続編として女性版の「青春漂流」を読みたいものである。

経営学部 杉本 篤信 准教授



『人間を信じる』（岩波書店）

吉野源三郎[著] 岩波現代文庫 2011年

マンガ版が100万部を突破するベストセラーとなり、話題を呼んでいる『君たちはどう生きるか』の著者、吉野源三郎の人間論・人生論。戦前の回想から二つの安保闘争での発言まで、彼の思想の基底をなすヒューマニズムあふれる論考がコンパクトにまとめられている。苦悩する人間の「人間らしさ」に共感を寄せ、あくまで人間に対する信頼を貫く精神の強さに触れたい。『君たちはどう生きるか』は時代を越えて読み継がれてきたのだが、なぜ今、ベストセラーになっているのか、その社会的背景についても敏感であってほしい。

教職支援センター 林 茂樹 准教授



新サービスの紹介



新OPAC登場!



2018年4月から図書館システムのバージョンアップを行い、OPAC(所蔵検索システム)が変わります!これまでの図書館ポータルサイトとOPACが統合され、検索ボックスが今まで以上に使いやすくなりました!簡易検索ボックスではキーワードだけではなく、タイトルや著者名、ISBNなどを入れても検索できるようになりました。また、ディスカバリーを含む色々な検索先をタブで選択できるようになりました!



※画面は製作中につき、実際のものとは異なる場合があります。

検索結果一覧画面も見やすくなり、絞り込み検索も容易にできるようになりました!



その他、App StoreやGoogle Playからダウンロードすることによって、スマホ版OPACアプリも利用できるようになりました。リニューアルされたOPACをぜひご利用ください!

2017年度

「摂大文化大賞」入賞作品発表 !!

図書館では、学生諸君の文化的創作意欲を奨励するために「摂大文化大賞」を設け、優秀な作品を表彰しています。

今年度も4部門にわたり18点の応募があり、審査の結果、下記の通り7作品が受賞しました。

なお、表彰式は12月14日(木) 図書館本館1階ラーニング・コモンズで開催され、受賞者には表彰状と副賞が授与されました。



表彰式後の記念撮影

部 門		賞	作 品 名	作 者	
				所属・学年・氏名	
 大 賞		草 叢 ～1/3scale～	外国語学部3年	畑下 高紘	
文 芸	部門優秀賞	紅 葉	理工学部 (M科) 4年	安部 能貢	
美術・工芸	部門優秀賞	地球の反対側	経営学部 (D科) 4年	野村 海空	
写 真	部門優秀賞	大阪の夜	外国語学部3年	岩見 風香	
	部門準優秀賞	唯一輪	外国語学部3年	草竹 研吾	
その他	部門優秀賞	燃ゆる思ひ (楽曲)	理工学部 (E科) 4年	萩原 友輔	
審査員特別賞		「行きたくないよぉ～」	大学院 (経営学専攻) 2年	チョウ 口	



大 賞
【草 叢 ～1/3scale～】



文芸 部門優秀賞
【紅 葉】



写真 部門優秀賞
【大阪の夜】



その他 部門優秀賞
【燃ゆる思ひ (楽曲)】



美術・工芸 部門優秀賞
【地球の反対側】



写真 部門準優秀賞
【唯一輪】



審査員特別賞
【「行きたくないよぉ～」】

- <編集後記>
- ・ 毎年恒例の第53回学生生活実態調査(全国大学生生活協同組合連合会)の概要報告によれば、大学生の1日当たりの読書時間は平均23.6分(前年比-0.8分)であり、まったく読書しない「0分」が調査開始以来初めて50%を超え、53.1%(文系48.6%、理系54.5%、医歯薬系62.6%)を記録したとのことでした。前年から4.0ポイント増加し、5年間で18.6ポイント増となりました。その一方、1日のスマートフォン利用時間平均は177.3分となり、前年比15.8分の増加となりました。若者の読書離れは時代の流れで如何ともしがたいことも知れませんが、確かに今号の館長寄稿文にもあるように、スマートフォンのネット検索で調べものをするのは簡単で大変便利です。でも、読書を通して知ることと、ネットを通して知ることは違います。ネットを通して情報を得ることはできても、知識とは呼べません。なぜなら情報は「考える」作業を経ないと知識とはならないからです。読書で得たものが知識になるのは往々にして「考える」ことを伴うものだからです。
 - ・ 今号では図書館運営委員の先生方から学生時代に読むべき本の推薦をお願いしました。どれか1冊でも興味を引く本があれば、ぜひ読んでみてください。学生諸君、時間がある学生時代だからこそ読書して悠久の人類の叡智に触れてみてください。

Smart and Human
摂南大学



「学而」 摂南大学図書館報 No.99 2018.3

本 館 〒572-8508 大阪府寝屋川市池田中町17-8 TEL.(072)839-9111
分 館 〒573-0101 大阪府枚方市長尾峠町45-1 TEL.(072)866-3102

URL: <http://www.setsunan.ac.jp>